

(別紙 12)

大学「地（知）の拠点整備事業」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	特別養護老人ホーム芙蓉荘
実習期間	令和元年 8月 19日 ～ 令和元年 8月 23日
学生氏名	丹笙
実習プログラム	2. 実習プログラム 1日目：施設説明、理髪店のお手伝い、介護保険についての講習、食事介助見学、カンファレンス見学 2日目：利用者のバイタルチェック、嚥下体操、記録、食事介助体験イベントのお手伝い 3日目：イベントのお手伝い、食事介助体験、物販イベントのお手伝い 4日目：利用者の方の買い物の付き添い、体操、昼食の配膳、施設内説明レクリエーション 5日目：生活相談業務のお手伝い、申し送りの見学、事前面接の見学、食事介助体験、利用者の方の水分補給の介助体験
学び・気づき (300字程度)	4日目のグループホームでは利用者が出来る範囲でかつ利用者の方に合わせて野菜の皮剥きなどをお願いするなど、役割のようなものを形成しており、些細なことでも「役割」を果たすことや続けることが利用者の方にとって、とても重要なものだと知ることができた。また利用者の方と一緒に近くのスーパーに買い物に行く機会があり、そういった外に出るといのが利用者の方にとって、とても良い刺激になることに加え、地域住民に対して利用者の方々の存在や施設を認知してもらう機会にもなり、地域との関係づくりも同時に行われていると知ることが出来た。他にも近くの小学校のイベントなどにも参加して、積極的に地域活動に参加していることが分かった。地域住民の方々の深い理解が施設運営に必要不可欠であると知ることが出来た。
今後に向けた 抱負 (200字程度)	食器を片付けるなどの日常の些細な行動だとしても利用者の方にとっては「役割」を果たす、続けるというとても重要な行動である。たとえ日常の動作でも必ず一つ一つの行動に意味があると感じた。それまで利用者の方の本位になるということの本質を理解できていなかったが、利用者の方と積極的に関わっていくことで、少しずつ理解できたと感じる。またインターンでの経験を活かしこれから福祉を勉強していく上での考えの基盤にしていこうと感じた。

<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>今回のインターンシップ先では利用者に寄り添い、利用者の方が自分らしい生き方をできるように最大限の努力がなされているように感じた。また、色々な職種の職員同士が申し送りなどの話し合いをしっかりとすることで職員同士の連携がしっかりと行われていた。さらには職員の方が常に笑顔で利用者の方とコミュニケーションを取っていたことがとても印象深い。そのおかげで施設内はいつも賑やかで温かく感じられた。加えて、利用者の方の部屋を含め施設内は季節を感じさせるような飾り付けなどが多く設置されており、施設内で過ごしていることが多い利用者の方にとっては季節感を感じやすく、とてもよい刺激なるようなそういった環境づくりが行われていた。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	

(別紙12)

大学「人材育成強化科目」ホームページ掲載用原稿記入フォーム

※以下の項目を参考の上で作成をしてください（様式は自由です）。

実習企業・機関	特別養護老人ホーム 芙蓉荘
実習期間	令和 2年 2月 17日 ～ 令和 2年 2月 21日
学生氏名	菅原 里穂
実習プログラム	<1日目> 9:00～ 介護保険・芙蓉荘についての説明 9:30～ 散髪の見学・手伝い 10:30～ 施設内の見学 11:15～13:00 食事補助、仕事の見学(はつらつグループ) 14:00～15:30 食事補助、利用者とコミュニケーション(はつらつグループ) <2日目> ・デイサービス たんぽぽ 9:00～ 利用者とのコミュニケーション(脳トレ) 11:00～13:00 体操、利用者とのコミュニケーション 14:00～15:30 体操、レクリエーション・おやつ <3日目> ・グループホーム はまゆう 9:00～ はまゆうについての説明・見学、利用者とのコミュニケーション 10:00～ 体操、歩行、お茶・新聞読み・歌の手伝い 11:45～13:00 昼食(利用者達と一緒に)、片付け、部屋の見回り 14:00～ 利用者との会話、体操、かるたを使った脳トレ 15:00～15:30 利用者とおやつ・コミュニケーション <4日目> 9:00～ 相談業務についての説明、申し送りの見学 11:30～13:00 食事補助、後片付け、利用者とのコミュニケーション(ふれあいグループ) 14:00～15:30 入浴介助 <5日目> 9:00～ 申し送りの見学、利用者とのコミュニケーション(はつらつグループ) 11:00～13:00 食事補助、後片付け(はつらつグループ) 14:00～ カンファレンスの説明・見学 15:00～15:30 利用者とのコミュニケーション
学び・気づき (300字程度)	実習を通して、利用者が少しでも暮らしやすいようサポートをすることが介護福祉の基盤になっていることが分かった。カンファレンスの際に、看護師・栄養士・ケアワーカー・ケアマネージャーがそれぞれの視点から利用者について報告していて、他職種で連携して利用者の要望に添えるよう話し合っている事を学んだ。また5日間の実習中、利用者への声かけが印象に残った。入浴や散髪の時に抵抗が強い利用者がいれば天気の話をして気を逸らしたり、ベッドに移す時や食事の時なども、利用者の状態が寝たきりであれ、耳や目に不自由があっても職員は欠かさず声かけを行っていた。利用者に関わる上で声かけが1番重要であるという事を再確認することが出来た。

<p>今後に向けた 抱負 (200字程度)</p>	<p>実習中はやはり利用者と会話する時間が多かった。日を重ねるにつれて積極的に声をかけ、会話を試みる事が出来たが、利用者の言葉がうまく聞き取れなかった事が多々あった。その事を職員さんに相談したところ、「傾聴することが1番大事で、話を聞くだけで嬉しいと感じる方もいるよ」と教えてくださり、重要なのは会話のキャッチボールではなくしっかり相手の話を聞く事なのだ気づき、実習で学んだ事と合わせて今後の福祉の勉強に活かしていきたいと思った。</p>
<p>インターンシップをして気づいた、実習先の魅力 (300字)</p>	<p>カンファレンスで利用者の生活の要望を聞いたり、おむつの種類や食事の状態が個々で違ったり、寝返りが打てない人には床擦れが起きないようにこまめに体勢を変えてあげたりなど、至る所から利用者1人1人を大切にして、その人に合った介護を提供している所に感銘を受けた。今回、特別養護老人ホーム・デイサービス・グループホームで実習をしたが、どこも利用者と職員の仲が良く、温かい雰囲気を感じた。職員がきちんとした知識をもって適した対応をしているからこそ、利用者が心地よい場所と感じ、職員と利用者の良い関係が築けているのではないかと思った。また、同じ介護施設でも場所によって心がけている事が違ったりしていて、そこも芙蓉荘の魅力の一つであると感じた。</p>
<p>写真 (1~3点)</p>	